

寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 議事録（要旨）

会員 10 名中 9 名参加

【日 時】 令和 6 年 10 月 29 日(火)午後 2 時 00 分ごろ～午後 3 時 30 分ごろ

【場 所】 寝屋川市立産業振興センター 3 階 第 1 セミナー室

【配布資料】・第 18 回寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 次第

- ・寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 会員名簿
- ・第 18 回寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 席次表
- ・寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議設置要綱
- ・寝屋川市産業振興条例
- ・寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 資料

【出席者】

第 1 号会員 公募市民 下田 綾子 氏

第 2 号会員 寝屋川市商業団体連合会 高田 勝司 氏

寝屋川市工業会 小谷 博明 氏

寝屋川市農政推進協議会 玉川 好裕 氏

第 3 号会員 北大阪商工会議所 中島 要 氏

第 4 号会員 大阪電気通信大学 伊藤 義道 氏

摂南大学 尾山 廣 氏

第 5 号会員 寝屋川市消費者協会 森田 順子 氏

会 長 市まちづくり推進部部長兼産業振興室長 山口 美加

市事務局 法元次長、川原課長、津川係長、元村係長、前田

【欠席者】

第 4 号会員 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 富加見 隆 氏

【傍聴者】

0 名

【要 旨】

1 会員の紹介

2 会議の公開・非公開

会議の公開・非公開について諮り、原則どおり公開とすることを決定した。

3 市産業振興に関する連絡調整会議について

寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議の設置目的を説明し、選任された会員の任期は令和6年10月5日から令和8年10月4日までであることを説明した。

4 市の産業振興施策について

(1) 農業まつり

【説明・趣旨】

・第42回寝屋川市農業まつりについて、概要・目的、開催内容等の事業内容の説明を行った。

【質問・意見】

▶質問1

（ 質 問 ） 農業まつりは寝屋川市民を対象としているのか。

➡（ 回 答 ） 農業まつりは寝屋川市民に限らず、他市の方々にも参加していただけるイベントとなっている。

▶質問2

（ 質 問 ） 農業まつりは、どのような目的で開催されているか。

➡（ 回 答 ） 寝屋川市で行われる農業は、大規模農業ではなく、市街地の中で行われる都市農業が特徴である。このような環境において、農業者が自らの農作物を紹介し、市民に農業への親しみを持ってもらうことが目的の一つである。また、農業団体に対しては販売の場を提供することも重要な目的となっている。これにより、市民が都市農業の重要性を理解し、農業の維持と発展に貢献することを目指している。

▶質問3

（ 質 問 ） 農業まつりにおけるすさみ町の特産品販売は、販売時間が2時間で終了するのか。

➡（ 回 答 ） 販売時間は2時間に設定されているが、例年、特産品は販売終了時間を待たずに完売する傾向にあり、今回も早々に完売し、終了することが見込まれる。

▶意見 1

- ・委員として農業まつりに関わっており、これまで打上川治水緑地で開催していたものを、今回は初めて寝屋川駅前線（駅前大通り「さわやかロード」）で実施することとなった。今後とも皆様の協力をお願いしたい。

▶意見 2

- ・農業まつりは従来、打上治水緑地公園で開催されており、その場所は遠いと感じることがあった。しかし、今回の開催地は寝屋川市駅から近い場所に変更されており、アクセス面では良くなったと感じた。

▶意見 3

- ・すさみ町の特産品販売に関して、農業まつりでの 2 時間の販売時間に加え、場所の占有許可を取得し、駅前などの他の場所でも販売する機会を増やしてはどうか。

(2) ねやがわパーク事業（月見とランタンの夕べ）

【説明・趣旨】

- ・令和 6 年 11 月に開催の「ねやがわパーク事業（月見とランタンの夕べ）」について、開催内容等の説明を行った。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ） ねやがわパーク事業の開催内容に記載されている「舞台でのジャズの生演奏」について、3 日間とも実施されるのか。

➡（ 回 答 ） ジャズの生演奏は、開催時間中に終始行われるわけではないが、3 日間とも実施する予定である。

▶質問 2

（ 質 問 ） ねやがわパーク事業は寝屋川市民を対象としているのか。

➡（ 回 答 ） ねやがわパーク事業は寝屋川市民に限らず、他市の方々にも参加していただけるイベントとなっている。

▶質問 3

（ 質 問 ） ねやがわパーク事業は、どのような目的で開催されているか。

➡（ 回 答 ） ねやがわパーク事業は、市民に明るい話題を提供し、まち

への愛着を深めること、また、イベントを通じて市内の飲食店や事業者の認知度を高め、地域経済の活性化を図ることを目的としている。今年度は、SNS やインターネットを活用した情報発信に力を入れ、市民がこれまで知らなかった店舗を訪れるきっかけを提供することに注力している。

▶質問 4

（ 質 問 ） 枚方市と摂南大学農学部が連携し、枚方市の特産である「すもも」を使用した「すももサイダー」を共同開発し、これが枚方市のふるさと納税の返礼品にもなっている。寝屋川市でも、特産品や市内企業の製品・技術を広く知ってもらうため、このような場を活用してはどうか。

➡（ 回 答 ） 寝屋川市にあるごま製品を製造・販売する会社が、和菓子組合とコラボレーションし、ごまを使った商品を出品している。また、寝屋川市の特産品にちなんだ商品として、「大葉の里（大葉を使ったゼリー）」や「桜ふわわ（桜あんとスポンジ生地のお菓子）」なども販売されている。

▶質問 5

（ 質 問 ） ねやがわパーク事業（月見とランタンの夕べ）の実績として、2日間で約 15,000 人（令和 5 年度実績）が来場した。寝屋川まつりにはそれ以上の来場者があり、アナウンス方法によっては来場者数がもっと増えるのではないかと考えている。市として、どのようなアナウンス方法を用いているのか。

➡（ 回 答 ） 市では、広報紙で特集を組み、市内にポスターを掲示するとともに、若い女性に来てもらうためにインスタグラムやエックスなどの SNS での投稿頻度を増やし、京阪電車の中吊り広告も活用している。また、親子連れに来てもらうため、メッセージランタンを 1,000 個以上用意し、子どもたちに書いてもらう取組も行っている。

▶質問 6

（ 質 問 ） ねやがわパーク事業については、なかなか思いつかない独創的な発想で良い事業だと感じている。イベント内容は市役所で立案されて

いるのか。

➡（ 回 答 ）ねやがわパーク事業のイベント企画・運営は、公募型プロポーザル方式を通じて選定された、専門性や企画立案能力を有する事業者委託している。

▶意見 1

・ねやがわパーク事業は打上治水緑地公園で開催されており、最寄駅からは少し距離がある。市民をターゲットにする場合には問題ないものの、市外からの参加者を呼び込むためには、会場までの道中で参加者がワクワクするような体験を提供するなど、アクセスや案内方法の工夫が必要ではないか。

▶意見 2

・小学校や中学校などの各学校にアピールすることで、来場者数を更に増やすことができるのではないかと考えており、その取組を進めてもらいたい。

(3) 事業承継実態調査

【説明・趣旨】

・事業承継実態調査について、目的、調査内容、調査方法等の事業内容の説明を行った。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ）アンケートの回答が得られない場合もあるかと思うが、回答率はどのくらいを想定しているのか。

➡（ 回 答 ）約 1,600 件の郵送調査に加え、WEB 調査を実施しており、返答としては、おおむね 400 件の回答を得ることを想定している。

▶意見 1

・法人企業では後継者として息子などに事業を引き継ぐことがあるが、一般的に自営業者は自分の代で事業を終わらせる傾向が強い。また、現在の事業をそのまま次世代に継承するのは難しいというのが現状である。

(4) ユニーク経営表彰制度

【説明・趣旨】

- ・ユニーク経営表彰制度について、目的、表彰の種類及び対象、表彰の方法等の事業内容の説明を行った。

(5) かやしまりノバージョンプロジェクト

【説明・趣旨】

- ・かやしまりノバージョンプロジェクトについて、「萱島駅周辺エリア まちづくりの将来ビジョン」を策定したことや、これを基に、将来ビジョンを踏まえた具体的な取組を進めていくこと等、事業説明を行った。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ） 萱島駅周辺は、現在、寂しい印象を受けるが、「かやしまりノバージョンプロジェクト」とは、寝屋川市が萱島駅周辺のまちづくりの一環として、駅周辺の整備や新たな施設の建設を行っていく取組のことか。

➡（ 回 答 ） 「かやしまりノバージョンプロジェクト」は、将来にわたる持続可能なまちの発展を醸成するため、萱島駅周辺において様々な事業を計画的かつ総合的に推進していく取組である。具体的には、都市計画道路「萱島讃良線」の整備を始め、店舗網の形成や密集住宅地の解消、駅前広場や南寝屋川公園の整備などが含まれている。現在の萱島駅周辺の現状や特徴を踏まえ、まちづくりの方向性や目指すべきまちの姿を明確にし、将来にわたり持続的に発展するまちを実現するため、「萱島駅周辺エリア まちづくりの将来ビジョン」が策定された。

▶意見 1

- ・道路の整備を進めるに当たり、単に道路の整備だけに留まらず、隣接する萱島さくら公園や萱島あやめ公園を活用したイベントや活動を通じて、エリア全体が寂れることがないよう空間を有効に活用する方法を検討してはどうか。

5 働き方改革の推進について（意見交換）

【説明・趣旨】

- ・「働き方改革の推進」について、趣旨と本市における取組状況を事務局から説明の上、その後、意見交換が行われた。

- ・働き方改革という言葉をよく耳にする中で、働く人々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選べる社会を実現するため、長時間労働の是正や、柔軟で多様な働き方の実現、雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保等の措置が必要とされている。
- ・寝屋川市では「完全フレックス制度」や「職員＋職場サポートプラン（職サポ）：長期の育児休業取得者（正規職員）に対し、原則、正規職員を配置する制度」など、働き方改革のための具体的な制度が導入されている。

【質問・意見】

▶意見 1

- ・働き方改革を推進しており、職員からは副業の許可など柔軟な働き方を求める声が上がっている。事業者が改革を進める理由としては、人手不足の問題があり、就労環境を改善しなければ優秀な人材が集まらず、また、若者が転職しやすい現状ではすぐに離職してしまうことが考えられる。

▶意見 2

- ・かつては残業が常態化しており、給与は男女平等で、昇給は年功序列に基づいて行われていた。現在では能力主義が浸透しつつあるものの、年功序列の影響は依然として残っている。また、かつては12月31日でも夜遅くまで働いていたが、現在は31日は休業日となっている。さらに、不正行為の防止のため、職員は必ず1週間の休暇を取得し、その間に別の職員が業務を担当し、不正の確認が行われている。

▶意見 3

- ・少人数の組織では、顔色を伺いながら業務を進める傾向にあったが、最近ではハラスメント問題の影響で、上司が部下に声をかけにくくなっているとの声が上がっている。部下は本心を話すことが増え、その結果、上司が組織をうまくまとめるのが難しくなっている。

▶意見 4

- ・精神的に負担を感じる職員もおり、年間数名の職員が休職に至る事例が報告されている。また、転職を当たり前の選択肢と考える若者が増えており、資格を取得した後に転職されるケースも見受けられる。

▶意見 5

- ・かつては日曜日も勤務していたが、現在では日曜日は休業日となり、土曜日も月に1回又は2回は休めるようになった。しかし、働き方改革の必要性は認識しているものの、実際には進展していない。業種的に機械化が難しく、依然としてマンパワーに頼らざるを得ない状況がある。

▶意見 6

- ・コロナ禍を契機にリモートワークを始めとする技術が進歩し、以前は考えられなかった柔軟な働き方が実現した。その結果、家事や育児をしながら仕事をする環境が整ったと感じている。

▶意見 7

- ・以前の固定的な8時間勤務から、1日2時間といった短時間勤務を採用する事業所が増えてきている。事業者側は最低賃金の上昇が経営に与える影響を懸念しており、必要最低限の労働力を短時間で雇う方向にシフトしていくのではないかと考えている。

▶意見 8

- ・転職においては、職種を変えながら技術を身につける人が増え、長期間同じ企業に勤め続けることが珍しくなっていると感じている。

▶意見 9

- ・コロナを契機にインターネットを活用した新しい働き方が広まり、自分自身も物を直接販売できるようになったと感じるようになった。仲介業者を挟まずに直接お客さんに商品を届けることができる時代となり、このような考えを持つ人が増えていると実感している。

▶意見 10

- ・先日、息子が育児休暇を3か月取得した。これは会社にとっても初めての事例であり、今後、次世代が会社を担う立場となる中で、こうした事例をつくらなければ後輩たちにはつながっていかないと話していた。このように、時代の変化を実感している。

▶意見 11

- ・電気設備工事関係の関係者によれば、コロナ禍でも工事は止められず、現

在も納期までに仕事を終わらせるため、激務が続いている。その中で、必要な人材の確保が難しく、働き方改革を進めるためには人手が不足していると話している。一方、メーカー関係の関係者によれば、しっかりと取組を進めているとのことで、業種によって働き方改革の取組に差異があると感じている。

▶意見 12

- ・技術系業務では納期に迫られるため、人員増加なしには労働時間の削減が難しい一方、事務系業務では AI 導入により自動化が進み、効率化が進展している。これを踏まえ、今後は事務系業務を削減し、そのリソースを技術系分野にシフトすることが必要ではないかと考えている。

▶意見 13

- ・主婦が空いている時間を活用して、子どもが帰宅するまでの 1 ～ 2 時間をヘルパーの仕事などに充てることが多く、これにより家計の足しとなり、その時間を有効に使っている方にとって貴重な働き方だと感じている。

6 今後のスケジュール

- ・今後のスケジュールについては、事前に日程や案件の調整をさせていただく。